

2022/06/19

## 完走すること

おはようございます。またここに帰ってこられたこと、そして今朝、皆さんと御言葉を分かち合えることを、私は大変うれしく思います。

今日はまず、ある話をしたいと思います。ある晩のことでした、とあるベンチャー企業を立ち上げた5組の夫婦が家に集まっていました。彼らは、有利な不動産取引に投資しようとしていました。低リスクで、高利回りの投資でしたし、取引しようとしていた企業は評判が良かったので、夫婦達はすべてを賭けるつもりでいました。しかし、自分たちに落ち度があったわけでもないのに、この投資は暴落し、5組の夫婦はすべてを失ってしまいました。そして、彼らは事実上、破産してホームレスになってしまったのでした。

すると、ある大金持ちのビジネスマンが、彼らの話を聞いて同情しました。そして、5組の夫婦を呼び寄せ、同じ地域に新築の家を一軒ずつ買ってあげようと言いました。どういうことかという、夫婦たちが、そのビジネスマンが買った家に無期限で、しかもタダで住めることになるというのです。おまけに、その家の建物の調査を時々させることが、唯一の条件だということです。

夫婦達はとても感謝し、そのお金持ちの実業家の条件に同意しました。そして、その家に移り住み、幸せで充実した生活を始めたのでした。

約束の日、そのお金持ちの実業家は、最初の家を調査に行こうとしましたが、そこに住みついた夫婦は、その家が自分たちのものだと言い出しました。その家は自分たちの家で、自分たちの所有権を主張できるほど長い間そこに住んでいるのだから、金持ちの男がいきなりその家に入り込んで、いろいろ調べて調査することは歓迎しないとしました。そして、その夫婦は彼を追い返したのでした。

次に、金持ちの男は二番目の夫婦の家に行きました。彼らはこの家をもらってから、経済的にかなりうまくいっており、自分たちの生活に満足していました。彼らは喜んで金持ちの男を台所と居間に案内しました。しかし、貴重なワインのコレクションがあるダイニングルームには案内しなかったのです。また、通帳や投資の資料が置いてある書斎にも案内しませんでした。なぜなら、その金持ちの男が、自分の財産を返せとか、商売に口出ししてくるかもしれないと思ったからです。金持ちの男は、ダイニングと書斎に入っていいかと尋ねましたが、彼らがそれを拒否したので、男は家を出ました。

そして、金持ちの男は3番目の夫婦の家に行きました。その夫婦は彼を温かく迎え入れました。夫婦らは彼にお菓子と飲み物を勧め、家の中をすべて、ただし、一部屋を除いて案内しました。一つの部屋の扉が閉じたままだったので、金持ちの男は、その部屋を見ることができかどうか尋ねましたが、彼らは、そこは寝室で、プライベートな場所だからと説明しました。金持ちの男は、寝室がプライバシーであることは理解するが、家全体を点検する必要がある、寝室も含めて見たいと言いました。しかし夫婦は、寝室には入らないでほしいと言い、彼を玄関まで見送ったので、金持ちの男はその家を出て帰ることにしました。

そして、金持ちの男は4番目の夫婦の家に行きました。二人は彼を温かく迎えました。彼らは金持ちの男にお菓子と飲み物を勧め、自分たちの生活について話し始めました。その夫婦は彼を家の中、ただし広間の端にある板で覆われた一つの扉を除いて、全てを案内してくれたのでした。金持ちの男は、その部屋には何があるのかと尋ねました。夫婦は悲しげな表情で、「何もありません。でも、その部屋には入れないんです。」「どうしてですか？」と金持ちの男は尋ねました。夫婦は落ち着いた様子でした。そして、夫が次のように説明しました。「僕たちの赤ちゃんが、あの部屋で死んだのです。突然死だったんです。あまりに痛々しくて、私たちはその部屋には入りたくないのです。」

しかし、金持ちの男は、まだ「その部屋に入れてください。」と尋ねました。「ごめんなさい、辛すぎて」と、妻は言いました。「一緒に入れば、辛い気持ちが癒されるかもしれない」と金持ちの男は言いました。しかし、夫婦にとってその扉を開けることはあまりにも苦痛であり、彼らは拒否しました。そして金持ちは立ち去りました。

最後に、金持ちは5番目の夫婦の家に行きました。彼らは金持ちの男を歓迎し、家の中を案内しました。台所は少し散らかっていて、彼らはそのことを少し恥ずかしがっていましたが、リビングとダイニングは問題なく、寝室とバスルームは比較的きちんと整理されていました。しかし、ファミリールームには、違法なDVDが置いてあり、さらに恥ずかしい思いをすることになりました。そして、バスルームの鏡は、夫婦喧嘩で携帯電話を投げつけられ、亀裂が入っていたそうです。夫婦はこのことについて謝罪しました。そして、金持ちの男は、「心配することはない。人生には浮き沈みがある。」と、理解し、鏡を取り替えると言いました。

すべての部屋を見終わった後、金持ちの男は、リビングルームに座って、もう少し話をしてもいいかと尋ねました。二人は承諾しました。金持ちの男は、自分は世界中にたくさんの屋敷やリゾートをもっていて、夫婦が、そのどれかに無料で何日間でも滞在することができる、と説明しました。彼は、自分の所有する土地やリゾートに自由に出入りできるカードを取り出して、二人に渡しました。夫婦は、なぜ彼がそんなにも気前よくしてくれるのか、理解できませんでした。彼は、「夫婦たちが自分を信頼して、家の中のすべての部屋を見せたように、自分も自分の財産のすべてを夫婦達に見せたいのだ」と説明しました。そして、「自分と一緒に人生を歩んでいこう」と、夫婦に言ったのでした。

この話の中にある理屈を考えてみてください。私たちは神によって創造されました。私たちの命は神様のものです。そして、キリスト教の信仰を始めるとき、私たちはキリストを自分の人生に受け入れます。しかし、人生の一部に受け入れるわけではありません。部屋の状態に関係なく、すべての部屋にキリストを迎え入れるのです。少し妊娠するなんて、変な例えができないように、少しクリスチャンになることは出来ません。同じように、あなたがイエスに、あなたの人生の一部だけを与えるなんてことはできないのです。それはあなたが選択することはできません。神はそんなことを望んではいません。クリスチャンになることは、すべてかゼロかなのです。神に完全に委ねることが、あなたがイエスのもとに来る唯一の方法なのです。それが、あなたが信仰を始める唯一の方法なのです。

今日は、信仰という道のりをどのように完走することができるのか、クリスチャン人生というレースをどのように完走することができるのかについてお話したいと思います。そのことを、クリスチャンの人生に於いて、**レースの始まり**、**レースの中盤**、そして**レースの終盤**という、3つのパートに分けて見ていきたいと思っています。

私がこれから始めるお話は、特に、**クリスチャン人生の始まりから中盤**にかけての時期についてお話しします。クリスチャン人生の始まりは、**委ねる時期**として表現されます。特に、最初の時期は心をこめて信じるのが大切です。すなわち、人生のすべての領域においてキリストを受け入れるのが大切なのです。**マタイによる福音書 13 章**で、イエスは隠された宝物のたとえを話されました。宝のたとえでは、ある人が土地に隠された宝を見つけるために、自分の持っているもの全てを売り払い、畑の全てを買うという話です。この人は、宝の一部を手に入れるために、自分の宝の一部を売るのではなく、宝の一部を手に入れるために、全てを売るという話です。神の国とはそのようなものなのです。それがクリスチャン人生というレースの始まりであり、神に完全に従うことが大切なのです。イエス様は**マタイ 16 章**で、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」と言われました。中途半端ではダメなのです。しかも、『従う』とは、他文化を受け入れることではありませんし、ルールに従うことを言っているのでもありません。神との究極の関係を持って、神に従うことを言っています。クリスチャン人生というレースを完走したければ、今すぐ、そして、正しくレースをスタートしなければならないのです。

**ローマ人への手紙 10 章 9 節**に書かれている偉大な真理は、こんにちも変わらず、「イエスは主である。イエスが死者の中からよみがえったと 心で信じるならば あなたは救われる。」と言っています。

もし、あなたの人生において、『神様と正しく接すること』、『イエス様があなたの主であると宣言すること』、『神様に完全に従うこと』を妨げているものがあるなら、今日、すべてを神様に委ねるようにお勧めします。あなたの人生のすべてを神に委ねましょう。そうすれば、クリスチャン生活と言うレースを始めることができます。

全てを委ねましょう。

次に、**レースの中盤**にある信仰とは、どんなものかについてお話ししましょう。もしかしたら、あなたはもっと前にイエスに自分の人生を捧げたかもしれません。しかし、その後のあなたの人生が困難なものだったので、神との歩みは少し味けないものになっているかもしれませんし、世界は苦しく、あなたの罪はあなたに重くのしかかっているかもしれません。私達には、乗り越えなければならない障害がたくさんあるのです。

今回は、人生のレース中盤に向けて、あなたを強くする**2つの聖書箇所**を紹介したいと思います。一つめは、エペソ人への手紙5章15節から20節です。

<sup>15</sup>そういうわけですから、賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、<sup>16</sup>機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。<sup>17</sup>ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。<sup>18</sup>また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。<sup>19</sup>詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。<sup>20</sup>いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。

パウロはここで、私たちを支える素晴らしい教えを与えてくれています。この聖書箇所から**3つのポイント**を抜き出してみましょう。

まず、1つめの教えは、

1. 『酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです』と、書かれています。ここでは、お酒のことを言っているとは限りません。これは、『人生の困難に陥ったときは、世間に慰めを求めてはならない』と、教えてくれているのです。なぜなら、そこで見つけた慰めが、自分にとって安らぎになったり、良く思えるものであったり、長く続くものであったりすると、この世にだまされてしまうからです。ですから、騙されないように、よく考えましょう。例え、その慰めが、酒のように瓶の中にあると、SNSのようにスクリーンの中にあると、店で売っているものであろうと、頭の中にある考えであらうと、それが神のものでないなら、満足することはできません。それどころか、あなたをより悪い状態に導くだけなのです。罪は、約束を果たしてはくれません。ですから私たちは、左、右と、よそ見をせず、イエス様から目を離さないようにしましょう。

次に、2つめの教えです。

2. 『御霊に満たされなさい』と書かれています。これは、あなたの信仰を決して学問的なものにしないでくださいと、教えてくれています。私たちは学ぶべきことがたくさんあります。そして、私たちは真の神が誰であるかを知らなければなりません。しかし、それは頭で理解することではありません。クリスチャン人生のレースを最後まで走り抜くためには、自

分の知恵や自分の力だけではできません。聖霊に満たされなければならないのです。しかも、この満たしは、一回限りのことではありません。原語のギリシャ語の文法では、『満たし』と言う言葉の時制は現在進行形になっています。すなわち、「聖霊に満たされ続けなければならない」と言うことなのです。この『聖霊の満たし』は、祈りの結果として起こることもあります。しかし、普通は、特別な祈り、つまり、神の臨在を切望し、渴望した結果として起こるのです。

御霊なしにクリスチャン生活を送ろうとすることは、実は、害になりかねないと私は思うのです。神なしで神の仕事をしようとする、疲弊し、燃え尽き、壊れ、あるいは、物事を管理すればするほど、傲慢な気持ちになるだけです。今、社会的に、精神的な『心の病』が大きな問題になっていますが、コロナのパンデミックによって、さらにその傾向が強くなっています。しかし、私たちクリスチャンがメンタルヘルスすなわち『心の病』を患うのは、私たちが御霊に満たされ続けていないからではないでしょうか。私たちは、時として、神の御心から外れた決断をしてしまうことがあります。神が意図していないことをしたり、神が私たちに求めていることをしなかつたりしているのです。そして、そのことは私たちを疲れさせる結果になるのです。

**マタイによる福音書 11 章 28～30 節**でイエス様が言われたことは深い意味を含んでいます。「<sup>28</sup>すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。<sup>29</sup>わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。<sup>30</sup>わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

この聖書箇所では、イエスの霊に満たされることで、私たちの疲れが取り除かれ、私たちに休息が与えられると言っています。イエスのくびきは軽く、易しいのです。しかし私たちが、この真理を思い出す機会が少ないのは残念に思います。

最後に、3つめの教えです。

**3.** 御霊に満たされると他にどんなことが起こるのかという質問をしています。そして、パウロは次のように教えてくれています。

御霊に満たされると、

- ・私たちは、御霊からの詩、賛美、歌で互いに語り合うようになります。
- ・私たちは、主に向かって心から歌い、音楽を奏でるようになります。
- ・私たちは、いつもすべてのことについて父なる神様に感謝するようになります。

私たちが御霊に満たされる時、私たちの言葉は神々しいものになります。御霊は、私たちが神の言葉、神の歌を話すように導いてくださいます。私たちのことばは、もはや不平不満や

ゴシップ、罵り合いや嘘には関心がなくなります。むしろ、私たちは御霊のことばで互いに語り合うようになるのです。

そして、私たちは歌います。私たちは心の中で音楽を奏でます。これは御霊に満たされた者にもたらされる実りです。徒労も、憂いも、不満も、混乱もありません。私たちには喜びがあり、それがすべてを取り除き、歌へと導いてくれるのです。ヨシュア記には、『主の喜びはあなた方の力』という、神の古い教えがあります。

そして、私たちは神に感謝を捧げるようになります。私たちの心から自然に感謝が生まれるようになるのです。私たちは、他の人の良いところさえも神に感謝するようになります。私たちは自分の人生に起こった祝福を見て、そのことを神に感謝します。私たちは、人生のすべてのことにおいてキリストの勝利を感じ、そのことに感謝するようになります。

次に、クリスチャン人生というレースの途中で、私たちを支えてくれる 2つめの聖句を紹介しましょう。

**ヤコブ 2 章 26 節**には、「行いを伴わない信仰は死んだものです。」と書かれています。

イエスにすべてをゆだねること、御霊に満たされること、それが信仰です。しかし、行いのない信仰は死んでいると言っているのです。真の信仰は感情や態度以上のものを生み出すべきなのです。そして、信仰は、行いを伴わなければならないと言っています。パウロは**エペソ 2 章 10 節**で、「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」と書いています。

今日は、先ほど皆さんに少し、**DMI、国際ろう者支援団体**の活動についてお話させていただきました。私は25年以上前から DMI 国際ろう者支援団体の支援者であり、10年近く DMI のボランティアとして、そして3年前からスタッフとして活動しています。なぜ私が DMI で働くようになったのかというと、それは DMI が、イエス様への純粋な信仰と、その信仰を証明する愛の行いをしているからです。すなわち私は、DMI が信仰と行動の両方を兼ね備えていることに魅力を感じたからです。弱い立場の人たちがケアされ、キリストに導かれるのを見るのは、深い充足感を与えてくれます。そこには、信仰と行動が共にあります。私たちも、聖霊の導きのもと、聖霊の力によって、祈り、意志を持って積極的に行動しようではありませんか。

信仰の道のりを伸ばすには、まずイエス様にすべてを委ねることから始めなければなりません。クリスチャン人生というレースを続けるためには、御霊に満たされ、良い行いを生み出す『活ける信仰』を持つことが必要なのです。

**レースを完走**するためには、**希望**が必要です。クリスチャンの希望は、この世の希望とは違っており、神の国に『祝福された保証』のことを指します。

パウロはローマの教会に、

『だから私たちは信仰によって 義と認められたので…。 神の栄光の希望を誇りに思います。』と、書いています。私たちの希望とは信仰の自然な結果であり、自信に満ちた希望のことを示しています。それは、オドオドしながら遠慮して持つような希望ではありません。私たちは神への希望を 『誇り』に思っています。私たちが持つ希望は、キリストにある私たち、クリスチャン人生の最終局面、すなわちクライマックスでもあります。パウロはここでさらに、「**それだけではなく、患難をも喜んで**いる。なぜなら、患難は**忍耐**を生み出し、**忍耐**は**錬達**を生み出し、錬達は**希望**を生み出すことを、知っているからである。」と、続けています。

このように苦しみ、忍耐し、人格を形成して希望に至るといふ、クリスチャンの成長過程は、先ほど読んだイエスの教えと類似しています。クリスチャンと呼ばれる者は、自（おのれ）を無くし、自分も十字架を背負ってキリストに従わなければ、希望を見出すことはできないという教えです。イエスに従えば、必然的に希望に導かれるという教えです。

しかし、何のための希望なのでしょう？

現代の、一部の教会の教えに惑わされてはいけません。なぜなら希望とは、『より良い人生のための希望』ではなく、『永遠の命への希望』であるべきだからです。イエス様は、私たちの人生はすでに良いので、ただもう少し手を加えて、私たちにより良い人生を与えようとしてこの世に来られたのではありません。イエス様は、私たちが、神から離れて罪のために惨めに彷徨っていたので、私たちに新しい命を与えるためにこの世に来られたのです。

では、イエス様は、どのように私たちに新しい命を与えるのでしょうか？

パウロはローマ 5 章で、「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」と続けています。

### ローマ 5 章 1～5 節

<sup>1</sup>ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。 <sup>2</sup>またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。 <sup>3</sup>そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、 <sup>4</sup>忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。 <sup>5</sup>この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

皆さんは、キリスト教のお葬式に行かれたとことがありますか？友人や家族を失うことは悲

しいことです、特に若い人ならなおさらです。とても寂しくなります。しかし、キリスト教の葬儀は、悲しみについてはありません。希望に関するものなのです。クリスチャンの葬儀が美しいのは、私たちがイエス様との永遠の命を、望み、喜んでいるからなのです。

ヨハネによる福音書 11 章には、次のように書かれています。

#### ヨハネによる福音書 11 章 21～26 節

<sup>21</sup> マルタはイエスに向かって言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。<sup>22</sup> 今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになります。」<sup>23</sup> イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」<sup>24</sup> マルタはイエスに言った。「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。」<sup>25</sup> イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。<sup>26</sup> また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

これはキリスト教の信仰の大きな希望です。『復活した主』という歴史的事実と、『聖霊の靈感による永遠の命』という希望は、私たちクリスチャンへの褒美なのです。この聖書箇所最後にある、イエスのマルタへの、「わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」という質問は、マルタにとって重要であり、私たちにとっても重要なのです。

もう一度質問させてください。「わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」皆さんにも、このことを信じて欲しいと思います。

今から少し、このことについて祈ろうと思いますが、その前にもう一度、今までのお話をまとめておきたいと思います。

私たちは、どのように信仰という道を進めることができるのでしょうか？

私たちはどのように、クリスチャン人生というレースを終えことができるのでしょうか？

まず、

1. 人生のすべてをイエス様に委ねてください。あなたの人生のすべてをイエスに委ね、神に近づき、神に主権を委ねてください。

そして、

2. 御霊に満たされ、神様に栄光を帰すような行いをしましょう。

最後に、

3. イエス様にある、永遠の命という希望を持ち続けましょう。

お祈りしましょう。